

# 令和6年度第1回胎内市行政改革推進委員会議事要約

●開催日時：令和6年7月8日（月）午後1時30分～午後3時30分

●開催場所：胎内市役所 大会議室

●出席委員：会長 桐生和文

小川由美子 菊池英美 瀬賀和之 月岡俊輔 宮腰容子 吉村崇（敬称略）

## 1 あいさつ

- ・課長あいさつ
- ・会長あいさつ

## 2 議事録署名委員選任

- ・第1回会議の議事録署名委員は、月岡委員、吉村委員を選任する。

## 3 第4次胎内市行政改革大綱実施計画の進捗状況について

### 1 行政情報の積極的な発信

委員： 地域おこし協力隊による移住定住ポータルサイト「ゆうゆう」とはどのようなものか。

事務局： 地域おこし協力隊が移住者の立場で情報を発信している。内容としては、胎内市での暮らしや仕事などを中心に、地域おこし協力隊が取材を行い、発信している。

委員： SNSの活用について、非常に有効的に行われている。目標を超えるような市報の特集の掲載回数となっており、非常に良いと思う。発信はしているが、閲覧はどの程度されているか。

事務局： 閲覧数までは集計できていないが、観光系のInstagramなどについては、「いいね」の数も多く付いているので、有効に発信できているのではないかと考えている。

委員： 閲覧数などについても確認できると思うので、そうしたものの状況も見ていっていただきたい。

事務局： 本件について、本日欠席している委員からも事前にご意見をいただいているので、ここで共有をさせていただきたい。

#### 【意見内容】

市の公式LINEは、ごみ、防災、電子申請など項目ごとに直接それぞれのWEBページにリンクできるようになっていて、とても便利で、かつ、市政、生活情報だけでなく、今後の災害時などでも有効活用できる発信ツールだと思う。一方で、友達数の増加をもっと図っていく必要があると感じた。

毎回、フェイスブックやInstagramの投稿には、「公式LINEへの友達追加をお願いします」などの促進の文言を入れたり、米粉フェスタのよ

うなイベントで、友達追加のQRコードを記載したものを設置したりなどして、公式LINEの認知度を高めていくなど、職員の負担の少ない形で取り組んでもらいたい。

委員： 令和4年度公式SNSで更新がなかったアカウントが5件あったが、令和5年度も5件となっている。更新の必要がないアカウントなのか。

事務局： 引き続き更新がなかったアカウントは3つであった。廃止を行ったアカウントが1つあった。更新がなかったものが2アカウント増えているが、職員の体制等が整わず更新できなかったというような理由であった。令和4年度から引き続き更新がなかったアカウント等については、状況を確認したところ、既に目的が達せられたものもあった。

必要性があるものについては、発信をしていくべきだと思うし、必要がなければ廃止すべきと思うので、そのあたりは更に確認していきたいと思う。

委員： タウンミーティングの目的は、意見交換会ということで開催されていると思う。

例えば、タウンミーティングで参加された方々から意見が出た場合、その意見は、どのように行政に活用されているのか。審議会であれば、提言ということで公開されている。タウンミーティングについて、回数は毎年増えているということは分かるが、成果はどのように捉えられているのか。

事務局： まちづくり協働座談会については、毎回その議事録を作成し、議事録を要約したものを、庁内の全課に周知し、対応を求め、その意見が反映されるように努めている。

有益な意見もいただいているので、そうしたものはその後の対応の進捗管理を行いながら進めている。

実際に意見を市の制度に取り入れた例もあり、そういったものが少しでも図られていけば、市民の意見を反映する仕組みとして有効だと思うので、そういったところを意識して取り組んでいきたい。

委員： SNSが29アカウントもあり、アカウントが多すぎて、必要な情報が入手しにくかったり、どのアカウントを見たら良いのか分からないと最近思うところがある。

市民としては、何かの情報を調べるときに「胎内市」というところから入るので、何か情報を探しやすいような仕組みで、求めるサイトにつながり、わかりやすく調べられると良いと思う。

やはりそういったところでは、閲覧数や「いいね」とか、どういうところがよく見られているのかというのも、やはり確認していただくと良いと思う。

## 15 市税以外の新たな財源の確保と拡充

委員： ふるさと納税は、胎内市にとってかなり大きな財源となってきていると思う。令和4年に寄附した方は、令和5年も続けて寄附しているかなどは分かるのか。また、今後取り組む予定のところに、「真に本市を大切に思って寄附していただけるよう」というふうに書いているが、例えば胎内市出身の方が何割ぐらい寄附されているかのデータはあるのか。

- 事務局： 寄附の継続性については、ふるさと納税の返礼品の主なものはお米であり、大体その前の年に寄附された方は、引き続きその時期になると寄附をいただいている。件数は定かではないが、割合にすると非常に多いと思う。
- また、寄附される方の状況については、やはり数からすると本市出身の方というよりも、様々なところの方からの寄附がやはり多い。
- 委員： ぜひ、このぐらいの規模で継続して入ってくるよう、大変だと思うが、いろいろ手立てを考えていただければと思う。
- 委員： 返礼品のメニューに胎内DEERS応援寄附を加えたということだが、その成果はあったのか。
- 事務局： ふるさと納税での胎内DEERS応援寄附の件数はそれほど多くはない。ただし、企業版ふるさと納税では、胎内DEERSを応援する寄附がほとんどで、1,500万円ぐらいは胎内DEERS関連のものである。

#### 17 合理的で無駄のない予算執行

#### 18 費用対効果の検証

- 委員： 今後の取組予定に記載のある「合理的で無駄のない予算執行」の実施項目における「新採用職員研修のほかに、職員に対する研修等を検討する」、「費用対効果の検証」の実施項目における「行政評価等においてより実効的に各事業の費用対効果を検証する方法を検討する」ということについては、ぜひ取り組んでいただきたい。

#### 26 職員による改善提案の活性化

- 委員： 職員提案については、どのような形で提案を吸い上げる形になっているのか流れを教えてください。

事務局： 提案の様式があり、提案者が記載し総務課長に提出する。その後、審議を行う形になるが、受け入れられれば、課長会議等の中で、こういう提案がありましたということで発表するという流れになっている。発表については、提案者本人ではなく、総務課が提案の内容を発表する。

例えば、令和6年度はごみ収集の関係で、提案が1件あった。その提案の内容について、担当課である市民生活課と協議を行い、改善につなげていく形をとっている。

- 委員： 今後の取組予定として「改善実績の報告や改善提案が積極的になされる募集の仕組みを引き続き検討、実施する」とあるが、こういうものを取り入れたら積極的に提案が出るような何か面白いアイデアはないか。

- 委員： 先ほど話があったごみ収集の関係というものは、具体的にどのような内容なのか。

事務局： 「燃えるごみ」というごみ袋の表記を「燃やすごみ」と、表記を変えたらどうかという提案があった。

表記を変えることにより、意識を高めてもらうというような内容であった。

- 委員： 気軽に提案ができればいい。

私は褒賞を設けたらどうかと思う。採用されるかどうかは別にして、「こんな良い提案がありました」というような形で発表するとか、強調週間を設ける

とか。

職員にとっては、提案することが市の改善に関わっているということだと思うので、積極的に提案できるように考えていただきたい。より気兼ねなく提案が出せるような体制を作っていただきたい。

以上